

# 広報クイズ

【応募方法】 はがきに答え、住所、氏名、年齢、ご意見を書いて白根市役所広報係(〒950-12 白根市大字白根1235)へ。締め切りは9月17日(火)必着。正解者の中から抽選で5人に500円の図書券を、3人に県立自然科学館招待券をペアで差し上げます。

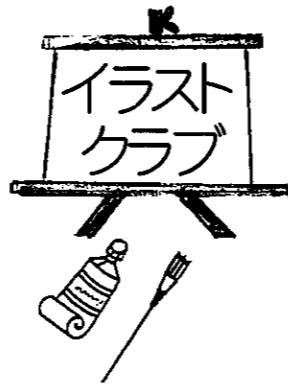
- 【問題】
- ①非核平和研修で広島へ派遣された中学生は何人?(ヒント=2ページ)  
A=9人 B=11人 C=6人
  - ②中ノ口さわやか文化交流で見事な曲芸を披露したのはどこの国の芸術団?(ヒント=4ページ)  
A=香港 B=中国 C=韓国
  - ③7月末日現在で、市の人口が4万人に達するまで、あと何人?(ヒント=6ページ)  
A=236人 B=321人 C=297人

【当選おめでとう】 先月の正解は①B②B③Bでした。【図書券】池田啓子(高井東) 田村幸子(七軒) 真保百合子(水道町) 星裕子(大通南) 勝山和浩(和泉)【自然科学館招待券】小林久子(上塩俣) 武田祐一(一の町) 小野優美子(大通南)

## 今月のハガキから

- ◎前の日からごみをステーションに出す人がいますが、近くに住民にとっては迷惑です。(O)
- ◎夏といえば“祭りシーズン”。白根の夏祭りも昔みたいにもっと活気があってほしいです。(H)
- ◎夏休みに入って、兄ちゃんと一緒にラジオ体操に行っています。僕のは体操でなくて盆踊りみたいだと笑われるけど、これからも頑張りたいです。(K)
- ◎白根で生まれ、白根で結婚生活を送られてとても幸せです。(T)

- ◎イラストははがきに黒一色ではっきりと。
- ◎薄い鉛筆書きはボツにします。
- ◎ペンネーム希望の人も住所、氏名、年齢を忘れずに。採用分には粗品を進呈。
- ◎締め切りは毎月15日。それ以降に届いたものは翌月に回します。
- ◎あて先 〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所広報しほねイラスト係



いつもたくさんの応募ありがとうございます。載らなかった人ごめん下さい。めげずにどんどん送ってね。よ書きも大歓迎。ご応募お待ちしております。



▲P.N ももさん (南新町)



▲つるまきゆかりさん (高井)



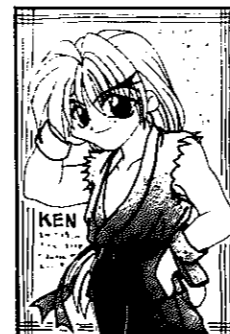
▲わだゆうじさん (大通南・4歳)



▲P.N かんざきさん (白井)



▲P.N ばくさん (大通南)



▲P.N バビル17世さん

## Talk & Talk

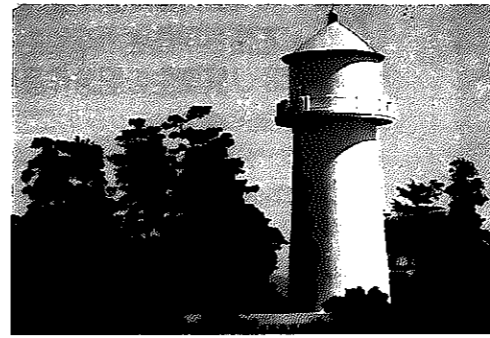
### 市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係(〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画財政課)です。

### 個性ある地域文化を創造する

安澤義昭(編者)

近年、村おこし、まちおこしという言葉をよく耳にする。そのシンボルとして、立派な市民センター、文化ホールなどの建設が盛んである。しかし、それらの施設はどの地域に建設される。特色がなく、地域の特性が生かされていない施設が多い。そして、単に施設のみが先行し、住民の発想が先かされていく場所が多い。文化の担い手は住民であるということをお忘れはならないのである。



地域の顔といふべき文化は、くみ、地域活性化につなげていくためには、次の三点が重要である。まず第一に、地域の特性を生かし、風土になじんだ文化活動を支援、紹介していく必要性である。第二に住民に文化創造のための機会と場を提供し、いかなければならない。そのためには、文化ホール、美術館などの施設が必要と考えられる。最後に、これまで述べてきた施策やまちづくりの中に、地域住民の意志が十分尊重されなければならない点が最も重要である。

### 愛ちゃん観戦記

魚玉美知子(魚町5)

去る五月二十六日、卓球連盟五十周年記念式典のハイライトとして、天才卓球少女愛ちゃんを迎えての卓球教室が行われた。白根市の小・中学生との交流試合は全勝と、力の差をまざまざと見せつけられ、私たち卓球関係者のみならず、一般の観客も目を丸くしていた。元世界チャンピオンの先生とも互角の試合をするすごい少女。

### 保護監察所・刑務所を見学して

関根正八(下茨)

先日、市保護司会の企画で自治会長として保護監察所・刑務所の二つの施設を見学してきました。

保護司の方々も努力されている姿がよく理解できました。しかし、教育活動もしているようですが、罪を犯す人たちがなかなか絶えません。保護司の方々には、更正を助けるために常に本人に接触しているの、本音をよく知っておられると思います。これを大切にして、犯罪予防に教育に社会環境の整備にと各方面に反響させてほしいと思います。

刑務所では、受刑者が罪の償いの作業に汗を流していました。ちり一つない清潔な部屋、軍隊のような規律正しい生活、毎日の評価とその対応など厳しい面もわがわがしました。食事は副食が一日三百七十八円だそうですが、割に良いものでした。受刑者たちは、毎日野球やジョギングなどの自由なスポーツをし、健康維持に努めていました。慰問やレクリエーションもあるほか、施設にはテレビもあり、新聞の差し入れもあるなど環境は整っており、冷暖房がないのが、唯一の厳しさという感じがしました。

### 市民文芸

俳句

- 桑の実の熟れて鳥来る木となりし 坂内ナナ子  
何ぞ出る土蔵の整理半夏生 小林 光子  
浪果つる時さらさらと夜光虫 公條 雪夫  
一病を後生大事に大昼寝 笠原 里津  
さりさりと土手の草刈る音涼し 豊木サダ子  
胸襟を開くこと竹皮を脱ぐ 樋口 トシ  
大青田悠然として夕暮る 山口 初野  
湯女の注ぐ山の湯宿の岩魚酒 猪股 南魚  
兄のねがひ吊し七夕竹おもし 五十嵐寛香  
ダイエットして夏ばてに耐へてゐし 安沢 飛浪  
雨上り森影らみて緑深し 吉川八重子  
夏川に灯淨かべ屋形船 細貝 漢子  
かき氷崩す二人の腕時計 真島つぎえ  
胸痛む日の想ひ出や終戦日 小林富沙子  
履き馴れし靴の片減り終戦日 関島きよ子  
草取りの小昼ひと刻かき氷 小林 なお  
常備薬余生大事に終戦日 金子 千代  
公園の茶店に永業の旗なびく 知野信一郎  
昏れてなほ舗装のいさげ終戦日 丸山 虚秋  
眼帯は戦さ見て来し終戦日 間島 秀穂
- 短歌  
写経する経巻の中の筆遣い 重ねゆく間にお経誦んず 大旗 イツ  
お伯母上の四十九日の法要に 永遠の別れと合掌す、南無 河内 勝哉  
紫蘇味噌を好みしひとを懐く故 紫蘇の葉見ればまたも買う我 木川 久子
- 食む物を捨つるは悪しと育てられ 我が相かくて一生変らず 田中 恭子  
巨いなる「大漢和辞典」二十巻 成されし博士の故里うるわし 飯井いくの  
診察を待つ間の不安目を閉じて ずっと又あけ迎り宛う 剣 淑子  
青田風越後平野緑に包む 波打つ香り豊年型よ 長谷川久二  
風合戦舟慶降下し敵風 絡む瞬間観衆とよめく 織田 護  
街中に異国の人の音なりとさく 織田 護  
職場求める者なりとさく 小出熊四郎  
久びさに鏡がみを見れば太きしみ 老のしるしかさびしく見つむ 小出よしの
- 川柳  
民主主義ハイを知らない子に育て 山岡 フミ  
人情を売り満足を買う小売り 吉川 彰  
一步譲って酸欠を免れる 今井 七郎  
スーパ―の見舞いの文字は印刷で 織田 福治  
コラムからもう小さな玉手箱 織田 セツ  
ドラックスを自慢している砂の城 大谷 龍吉  
ダンボール箱が孫等の秘密基地 後藤マサノ  
踏み切りは満点だった金メダル 佐藤トミノ  
コラムから貫う詩想のうすつべら 佐藤 ヨキ  
十人十色の花を咲かせる日記帳 田村 恒夫  
お古でも山車は山車です 秋祭 高橋祐四郎  
嘘から消えない寅に茶茶賞 中村 尚治  
浮雲に届かぬ距離と言うものを 西条 ムラ  
丸裸になると世間が見えてくる 今井八重子